

2024 年 1 月 31 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

女子高校生の保護者の月経の知識向上のための
教材開発

Development of Educational Materials for the
Improvement of Menstruation Knowledge of Parents
of Female High School Students

22MW004

井部智美

要旨

【目的】月経教育に関して、保護者のみを対象とした教育プログラムはない。女子高校生の保護者が月経に関する知識を向上することを目的とした動画教材を開発するために、研究責任者が作成した試作動画教材について、保護者から評価を得て修正を行い、保護者用完成版動画教材を作成することを目的とした。

【方法】教育教材の開発のため、評価研究を行うウェブアンケート調査であり、女子高校の女子高校生(1～3年生)の親を含む保護者を対象とした。月経教育で不足していると考えられる内容を抽出し、「様子をみて良い月経の状態」「受診が必要な月経の状態」の2本の動画教材を作成した。評価項目は、動画教材の全体の適切性、内容の適切性・有用性、理解度とし、保護者のニーズについては自由記載に回答してもらった。量的データは度数(%)と平均点を算出し、質的データは内容分析の手法を参考に分析し、得られた結果をもとに動画教材を改善した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。(承認番号: 23-A030)

【結果】385名にリクルートを行い、有効回答の得られた48名を分析対象とした。回答者全員が母親であり、うち医療従事者は8.3%だった。教材全体の適切性について、90%以上の人が肯定的評価であったが、「動画の長さ」「動画の速度」は肯定的な評価が70～80%台であり、動画の長さの短縮と速度の調整が指摘された。教材の内容の適切性・有用性について、96%以上の人が肯定的評価であり、「理解しやすい」という評価が多く、「認識が誤っているとわかった」「動画を使って説明しやすい」などもあった。「中学生の保護者向けでもよい」「女子も男子も知るべき内容」など、対象の拡大についても言及された。教材の理解度についても全員が肯定的評価であった。また、質的データから【知識の習得】

【認識の変化】【知識活用の自信】のカテゴリーと《正常・異常の区別》《月経痛の対処》《月経中の対応》《受診について》《ピルの正しい情報》《知識の再確認》《受けてきた教育の不足》《子どもへの指導・助言》《親子の会話》のサブカテゴリーが得られた。保護者のニーズについては、【ピルの使用方法】【婦人科受診の迷い】【特徴的な状況に対する月経への対応】【月経に関連した婦人科疾患】のカテゴリーが得られた。これらの試作版動画教材への評価をもとに完成版動画教材を作成した。

【結論】試作版動画教材では、動画教材の適切性・有用性が示された。また、女子高校生の保護者が月経の正常・異常について正しく理解できたことで、子ども(女子高校生)の月経の異常を把握した際、受診や適切な治療を促すことにつながることを示唆された。試作版動画教材への評価をもとに修正した完成版動画教材は、保護者のニーズを反映させたものとなったと言える。今回の教材開発は、プレコンセプションケアの1つになる可能性がある。